

基幹労連シニアクラブ・ニュース

基幹労連退職者の会事務局

2017/04/18

第 34 号

～シニアクラブの今後のあり方について議論を開始～

基幹労連から対応方向に関する問題提起が示される

2月16日に開催したシニアクラブの幹事会から検討を開始した「シニアクラブの今後のあり方」に関し、基幹労連中央本部から「基幹労連の退職者の会の今後の運営に関する対応方向（案）」と題する問題提起の文書が3月末に発表されました。

具体的には、結成5年目に入った退職者の会の活動について、参議院議員選挙の結果も踏まえ、基幹労連中央・地方組織と退職者組織との連携強化により、政策実現を軸とする諸課題への対応力の強化につなげていくためのものです。また、今後の役員体制など、当面する課題や県本部退職者の会の今後の充実に向けての考え方など、シニアクラブの当面する課題と対応についての問題提起も示されています。

今後の地方ブロック懇談会の場などを通じて各県本部退職者の会の皆さまとも意見交換をしていく予定です。

「基幹労連の退職者の会の今後の運営に関する対応方向（案）」

（問題提起・要旨）

1. シニアクラブの今後に向けた活動について

（1）充実すべき方向

- ・ 全県本部に退職者の会を設立できたことで、第一段階の目的は達成できた。次は力を発揮できる組織（共通の課題認識の下で、統一した活動、行動が実行できる組織を作り上げること）へと充実していかなければならない。
- ・ 具体的には、基幹労連と連携し政策実現を推進すること、国政・地方議会にわれわれの代表を送り出す取り組みで統一した意思表示を行うこと、会員相互の交流と助け合い、社会福祉・ボランティア活動への参画にまで活動を広げたい。
- ・ 組合役員経験者の組織化（構成組織執行部と職場役員OBをターゲットにした拡大の取り組み）をミニマム目標とする。
- ・ 当面の拡大取り組みは、県本部構成組織ごとの退職者の会（構成組織・支部が自組織の対象者を組織化し、運営も担う姿）の構築をめざす。

（2）具体的活動

- ・ 県本部退職者の会の会員拡大について、ミニマム目標として、県本部幹事会OB、構成組合の三役OB、執行部OB、職場組合役員OBを順次組織化していく。

- ・ 未加入の各県在住の幹の会対象 OB（産別役員 OB、総合諮問会議経験者 OB）にも入会を働きかける。
- ・ 構成組合独自の退職者組織には、積極的に入会を要請していく。労使で構成する会社主体の退職者の会についても、組合員だけでも入会していただけるよう働きかける。
- ・ インターネットを通じた会員とのコミュニケーションづくりを検討し、県本部単位でそのツールを活用できる体制づくりに取り組む。

2. シニアクラブの当面する課題と対応について

(1) シニアクラブの役員体制

- ・ 全国に拠点を持つ組織体にふさわしい役員体制として、中央本部役員、業種別各部門、県本部退職者の会のバランスのとれた構成としていかねばならないが、立ち上げ段階にある県本部退職者の会の実態、東京中心となる日本退職者連合への対応などを勘案すると、県本部退職者の会役員の参画を求める体制を構築していくには、いましばらく期間を要すると判断する。
- ・ 第6回総会の役員体制の構築は、現実的な対応として、関東圏在住の産別・構成組織役員 OB を中心にその任をお願いしたい。

(2) 退職者の会の事務局運営

- ・ シニアクラブ、幹の会事務局運営は、基幹労連本部の業務と位置づけて、シニアクラブ役員との連携の下で運営にあたることとする。

3. 幹の会の見直しについて

（次頁に記載）

幹の会第5回総会が東京で開催されました(3/30)

基幹労連シニアクラブの構成組織で、基幹労連本部役職員経験者と総合諮問会議経験者による基幹労連幹の会の第5回総会が、3月30日に東京都中央区において開催されました。当日は、幹の会会員約40名が参加し、中里良直氏（大同特殊鋼労組）の司会、小島弘幸氏（三菱マテリアル）座長で運営されました。宮園哲郎代表挨拶、操谷孝一基幹労連副委員長の来賓挨拶・特別報告では、昨夏の参議院議員選挙に対するお礼と報告、退職者組織の今後のあり方に関する問題提起がなされました。

また、今総会では、第三期の役員の選出が行われるとともに、総会前段に開催された役員会も含め、幹の会の今後の組織と活動について議論が交わされました。

総会終了後の懇親会では、4月から新たに労働外交官としてタイ国に赴任する岡本直也氏（三菱重工労組）の壮行会の場に参加して激励するとともに、基幹労連の現役メンバーとの交流、久しぶりに会った仲間との旧交を温めました。



宮園哲郎代表挨拶（要旨）



参議院議員選挙は極めて残念な結果に終わったが、会員皆様には従来以上の支援活動を展開し、ご協力いただいたことに感謝する。基幹労連は、今秋の定期大会で今後の政策実現のあり方をとりまとめるとのことであり、各種選挙や地域の諸活動を通じて現役との絆を強め、基幹労連の応援団としての役割を果たすとともに、オール基幹労連の組織力を強化していかねばならない。

本総会において基幹労連から、シニアクラブの課題も含めて幹の会の運営などに関する今後のあり方が提起されるので、その報告に沿って検討していくこととしたい。とりわけ総会の持ち方については検討が必要であると考えており、より多くの出席を得るためにはどうすべきか、旅費を中心とする費用負担の関わりなど、自らの問題として、会員皆様の意見を聞きながら役員会の場を中心に検討していくこととしたい。

基幹労連操谷孝一副委員長挨拶（要旨）



今日は、シニアクラブと幹の会の今後のあり方について、基幹労連として現在検討している考え方を提起させていただく。幹の会としても十分ご議論いただきたい。

参議院議員選挙についてお詫びとお礼を申し上げます。皆様には一汗も二汗もかいていただいたのに、あのような結果となってしまい誠に申し訳ない。中央委員会で選挙総括をしているが、力がなかったということであり、今後についてはいま議論しているところである。現状では、国会でものづくり産業のことをわかっている人が少なく、われわれの政策要求実現の取り組みに苦勞している。いずれにしても、まずは力を付けること。そのために、地方組織の強化、職場のコミュニケーションの充実など原点的な課題を提起している。その中に退職者組織の強化も含んでいる。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

「基幹労連の退職者の会の今後の運営に関する対応方向（案）」

（2頁からの続き）

3. 幹の会の見直しについて

- 全県本部に退職者の会を設立できたことを踏まえ、シニアクラブの活動を支える中心組織という役割を担う位置づけから、県本部退職者の会と同列の位置づけへと見直していく。
- 会員対象は現行を基本にしていくが、基幹労連本部と会員対象組織を通じた組織的な加入要請は行わず、個別に参加希望者を募っていく。
- 幹の会の運営は、基幹労連の業務と位置づけ、基幹労連の担当事務局次長が会の事務局長を務める。
- 活動の周期をシニアクラブと同期させていく。（秋の役員改選から2年）
- 総会会費、旅費は従前どおり個人にも負担いただくことを原則とし、会員出身組織に対する幹の会、基幹労連本部から参加費等支援要請は行わない。

- ・ 総会の開催場所、開催方式について、シニアクラブ総会の関係も勘案したうえで効率的に見直す。
- ・ 幹の会としての検討対応をいただき、2018年開催の総会において取りまとめていくようお願いする。

小栗啓豊事務局長の「幹の会の活動方針」提案（要旨）

1. 基幹労連退職者の会（シニアクラブ）の活動に、構成組織として参画します。
2. 基幹労連各県本部の退職者組織の拡大、活動の充実に向けて協力します。
3. 基幹労連の諸活動を側面的に支援します。
4. 本会の今後の運営のあり方について、基幹労連中央本部が提起する「基幹労連退職者の会（シニアクラブ）の今後の運営に関する課題と対応方向」をふまえながら、検討を深めます。
 - ・ 本件に関する意見をメール、ファックスで聴取します
 - ・ 本件に関するシニアクラブのブロック懇談会での議論に参画します
 - ・ 幹の会役員会を適宜開催して議論を深めます
 - ・ 10～11月に開催するシニアクラブ総会に合わせて、幹の会としての見解をまとめます
 - ・ 2018年総会は、春か秋かのいずれかで開催し、組織の見直し案について最終的に確認します。
5. 基幹労連退職者の会（シニアクラブ）のニュースを、メール環境の整っている会員に対して配信します。
6. 連合中央メーデー（4月29日）、退職者連合が開催する全国高齢者集会（9月14日）に、幹の会関東メンバーの参加を呼びかけます。
7. 本総会に参加できなかった会員の方には、議案書および総会の報告（シニアクラブニュース）をお送りするとともに、今後の運営に対する意見をお聞きします。

幹の会の新たな役員体制（2017年総会～2019年総会）

代 表	宮園 哲郎（新日鉄住金労連）
副代表	江畑 健一（三菱マテリアル総連）
//	小栗 啓豊（JFEスチール労連）
//	斎藤 敏郎（住友重機械労連）
//	田中 勉（三井造船労連）
//	西澤昇治郎（IHI労連）
事務局長	渡辺 強（基幹労連本部）（新）
幹 事	兼子昌一郎（JFEスチール労連）
//	澤田 和男（IHI労連）
//	鈴木 幹雄（三井造船労連）
//	中里 良直（大同特殊鋼労連）
//	吉沢 勇次（三菱重工労組）（新）
//	米内 顕二（三菱重工労組）

（役職・50音順）

日本退職者連合 2017年度運動方針の原案決まる

退職者連合は、3月15日に連合本部で開いた第4回幹事会で、7月14日に開催する第21回定期総会に向けて2017年度運動方針と2017年政策・制度の「年度要求」、低所得高齢単身女性問題に関する政策・制度の要求についてそれぞれ原案を確認しました。

2017年度運動方針原案の提案の中で菅井義夫事務局長は、①社会保障制度での負担増と給付削減は高齢者にとって命にかかわる問題②民主党との約束を反故にした自公政権の責任は重い③労働者を粗末にしてきた雇用・労働政策は誤り④貧困層が拡大していると指摘。「雇用の安定なくして社会保障なし」と述べ、「何としても政治の現状を変えなければ」と強調しました。さらに、「絶対多数に胡坐をかき、野党からの批判や追及に対しては、時にははぐらかし、時には攻撃的な口調で強弁し続けている」として安倍総理の政治姿勢を厳しく批判。運動方針のポイントとして「政策の誤りが高齢者、社会的弱者の暮らしを疲弊させ、民主主義、立憲主義、平和主義を揺るがし、社会保障制度を先細りさせている。衆議院選挙が取りざたされる中で、退職者連合は勤労国民の暮らしを守り、だれもが生き生きと安心して暮らせる社会にするために、連合をはじめ、目的を共有する幅広い市民団体などとの連携を強め、83万会員の総力をあげて取り組んでいくことが重要」との考えを示しました。



2017年度運動方針（原案）などを決めた第4回幹事会。（3月15日、連合本部8階三役会議室）

地方ブロック懇談会を全国で開催予定

今回の地方ブロック懇談会は、第24回参議院議員選挙の総括や今後の組織運営のあり方、組織拡大等について意見交換を行うとともに、基幹労連退職者の会（シニアクラブ）と県本部退職者の会との更なる連携強化を図るため、開催をいたします。

多くのご参加をよろしくお願いいたします。

開催日	開催時間	ブロック名	幹事県	開催場所
5月8日(月)	16時～	関東	群馬	群馬県安中市磯部 「磯部ガーデン」
5月10日(水)	15時～	東海	三重	愛知県熱田区金山 「ワークライフプラザ れある」
6月1日(木)	15時30分～	近畿	兵庫	大阪リバーサイドホテル
5月22日(月)	15時～	四国	香川	川崎重工労組坂出支部組合事務所
6月26日(月)	15時～	九州	鹿児島	鹿児島中央駅前

地域からの便り

大阪府本部退職者の会総会(4/11)

「介護・認知症予防」をテーマに講演！

大阪府本部退職者の会（基幹大阪シニアクラブ）第10回総会が、4月11日（火）に退職者の会会員や退職者出身組織の現役組合役員など約60名が出席し開催されました。基幹労連シニアクラブからは宮園会長が出席しました。

本総会においては、①組織運営・活動の充実に向けて②基幹大阪との連携について③基幹労連シニアクラブとの連携について④大阪退連への対応について⑤会員の拡大について、などの活動方針が確認されました。総会終了後、基幹大阪シニアクラブ独自の取り組みとして今年で3回目となる講演会については、高齢者の課題となっている「健康寿命」の観点から「介護・認知症予防」をテーマに介護予防主任運動指導者・小笠原資子さんを講師に迎え講演会が実施されました。

